

無料ソフト、 ページミル2.0 版で 探検隊の ホームページを 作ってみたが：



PageMill2.0 版編

illustrator : Kaori Takahashi



ホームページ作成ソフトがあれば、HTMLを覚えなくても大丈夫？

HTMLエディター：HTMLが書けなくても、見たままにホームページを作成できるソフト。本誌CD-ROMに収録されているものでは、ホームページビルダー体験版（WIN BUILDER） BooStar（WIN BOOSTAR） golive pro（Mac Golive）など。

全国のインターネット探検友の会の皆さん。私がこの連載を始めてからぜ～んぜん旅行に行けなくなってしまった互連網探検家の村野です。探検家なのにソトに出かけられないぞ～、ったく……なんてボヤいている場合ではない。今回は探検先がこれまでになく複雑怪奇なのでさっそく本題に入ることしよう。

今月、編集部から出された目標は、「無料で使えるお試し版ソフトを使ったホームページのデザイン」挑戦。つまり最近注目されているホームページ作成用プログラムで、ウェブのページを作ってみようというわけである。

実際にウェブページを作るためには、素材となる文章や（多くの場合、GIF形式の）画像ファイル、さらに凝ったことをやろうとすれば、音声ファイルや動画ファイル、加えて最近話題のショックウェブやJavaのアプレットが必要になる。もちろん、素材を集めただけでは駄目で、こうした素材を組み立ててページにレイアウトし

たり、リンクを張ったりしなければならぬ。このために必要なのが「HTMLエディター」と呼ばれるものなのだ。が、実はこれって普通のテキストエディターでもできてしまうんだそうである。

特別なプログラムがなくても、エディターだけでウェブのデザインができてしまうところがHTMLのすごいところ……ではあるのだが、問題はこの言語の仕組みを覚えるのが面倒くさいこと。ま、プログラマーとか呼ばれる人に言わせると「こんなもの、プログラムでも何でもなし」ということになるのかもしれないが、世の中よくできたもので、こういう言語使いまくりの人に限って、デザインセンスが超パァ～ッド（ちょっと偏見）

というわけ……かどうかは知らないが、プログラミングは面倒だけど、楽しんでちょっとおシャレなウェブページを作りたいという人のために作られたのが、今回紹介するウェブデザインソフトウェアなのである。

① いろんなソフトを ちょっとチェックね

さて、付録のCD-ROMの中にも入っているように、最近はいろんなウェブデザインのためのソフトが出ている。とりあえず試しに無料で使えるものを先月号の付録小冊子で見ると、HTMLエディターのうちウィンドウズとマッキントッシュの両方で使えるものとして「こざいくWebDesigner」と「HotMetal Free2.0」がある。そこで、とっかかりとしてこの2つからチェックしてみることにした。

まず、いかにもチープなシャレで命名してしまったのではないかとされる「こざいく」のほうは、なんと製品版が198,000円という今時めずらしいバブル値段。これをタダで試してみれるんだからラッキー！と思って使い始めたものの、おいしい話には裏がある。実はこのお試し版には、一度に連続して使える時間が8分以内という制限が付いていて、こいつが1分ごとに、「あと何分で終了します」というダイアログを出してくる。まったく、ウッセいったらありゃしない。

こちとしてはソフトがどういうふうに見えるのかを理解しようとするのだが、その度にイライラさせられて、ぜえ～んぜん使う気にはなれない。こんなことを言うのも変だが、これってマーケティング的にもあまりよい効果を生まないんじゃないかと心配してしまうほどである。

もう1つの「HotMetal」のほうは、HTML言語の中に埋め込む何種類もの「タグ」をツールバーから選んでドロップしていくと、最終的に立派なウェブページがデザインできるというもの。しかし、これってパレットにタグがあらかじめ用意されているエディターにすぎないので（と言っても、タグの表示/非表示で結果がすぐに確認できるので便利ではある）、HTML言語の何たるかを理解していないと使えない。

ちょっと古い言い方になるけれど、もっとWYSIWYG、つまり見たままでウェブページがデザインできるようなプログラムはないものか、と探していたら、かの有名なアドビ社のウェブ（<http://www.adobe.com/prodindex/pagemill/main.html>）で「PageMill」というウェブページデザイン用ソフトの版がダウンロードできるという耳寄りな情報を聞き込んだ。そこで今回はこれをダウンロードして試してみることにする。

② PageMill 2.0をウェブから ダウンロード

ところで、ウェブページを作るのはいいが、どんなものでもいいというわけにはいかない。私の美的才能を披露するとなると、途端にギャラが跳ね上がって編集部には払えそうもない(?)。かといって、安直に簡単なものを作ってしまったのでは全国の探検友の会の会員に申し開きができない...。う～んと考えた末、今回は、デザインセンスのよさで業界関係者も注目!のこのページを作ってみることにした(297ページ図4参照)。

そこで、まずはこのページの構造と要素を考えてみると、一番上にあるジグザグの飾り線(①)さらにその下に「【インターネット探検隊】隊長 村野幸夫」という文字(②)が入る。

さて、その下。ここのスペースには写真をバックにした私と猫のイラスト(③)その左には縦組みの文字が5列(④)。

これらのブロックの下に、左側に「カラーザウルス編」という文字の入ったプレート(⑤)があり、その下にイラストとその説明が1つ(⑥)。この右側には2本の文章ブロックがある(⑦)。

どうやらこの形をそのまま実現するためには、よく見かける、横に文章がずら～と流れて、それが下まで数本並ぶというウ



お試し版には使用期限や機能の制限がいろいろとついている。



隊長自らこのコーナーのホームページ作成に挑戦。

先月号の付録小冊子：インターネットマガジン11月号付録小冊子「ホームページ作成ツールガイド」のこと。

こざいくWeb Designer：本誌CD-ROM収録先Mac こざいくお試し版。

HotMetal Free2.0：本誌CD-ROM収録先Mac Hotmetal。

WYSIWYG：ユーザーインターフェイスの基本概念で、ディスプレイ上で見たままのものがえられるという意味。What you see is what you getの略。



図1: PageMillの作成画面(上)とブラウス画面(下)。



ReadMeは当然英語で書かれているっ!

ウェブのデザインでは駄目で、「表組み」あるいは「テーブル」と呼ばれるブロックを作って、その中に素材を入れていく必要があるようだ。

だいたい目安がついたところで、素材となる画像ファイルやイラストを取り寄せてくれるように編集部に頼んで、こちらはダウンロードした「PageMill」を試してみることにする。

🌀 日本語が駄目だが、救いはある？

ダウンロードしたファイルを解凍すると、「Readme」フォルダーに「Readme.html」というファイルが入っている。これをダブルクリックするとPageMillのアプリケーション内でHTML化された説明書を読むことができる……のだが、当然これはぜんぶ英語。とりあえず斜め読みしてみると、どうやら右端のアイコンをクリックすることで、ブラウスモードと編集モードが切り替えられるらしい(図1)。

編集モードに切り替えても画面上にはなんの変化も起こらない。しかし「Edit」メニューから「HTMLSource」を選択すると、文字だらけの画面が出てくる。実はこれがHTMLで書いたブラウス画面のファイルというわけだ。

さて元の作成画面に戻り、ツールバーの上をマウスでトレースすると、アイコンの左の部分に各ツールの名称が表示される。

文字に関してはボールド、斜体、等幅、色、フォントサイズの指定、左寄せ、センタリング、右寄せ、オブジェクトの上付き、下付きなど、さらにオブジェクトやライン、チェックボックス、ラジオボタン、文字フィールド、パスワード、プルダウンメニューなどの挿入ボタンが並んでいるが、最後のところに格子状のアイコンがある。これがテーブル作成のアイコンだ。

先ほどこの記事のページを解析したよう

に、今回はこれをうまく使って画面を構成することになる……のだが、その前にちょっとした問題に出くわした。

実は新規作成を選んで、新しい画面で日本語を入力しようとしたところ、英語版のソフトにありがちな変な文字が出てしまうのである。ま、このおかげで多くの英語ソフトウェアは日本語化されるまで待つことになるのだが、実は先ほども書いたようにHTMLのファイルはふつうのエディターで簡単に手を入れることができる。だったら、まずは英語で適当なファイルを作っちゃい、それを普通の日本語が使えるエディターで開いて、英語のテキスト部分を日本語に置き換えてしまえばいいのだ。

というわけで、見たものそのままウェブページがデザインできる「WYSIWYG」とはいかないが、とりあえず全体の“入れ物”のデザインを作ることしよう。

🌀 最初はテーブルの割り付けからスタート

編集部からもらった素材は、ジグザグの飾り線(giza-ok.gif) 写真(MainPhoto.gif)とイラスト(Illust-1.gif)である。これと同じフォルダーに入れておいて、まずは「PageMill」のファイルメニューから「新規」を選び、新しいページを開いてデザインの開始だ。

さて、本当はあとから気づいたのだが、この段階でやっておいたほうがよいことがある。ウェブを見ている人なら当然気がついていいると思うが、ウェブブラウザというのはモニターの画面サイズに応じて広くもできるし、狭くもできる。しかし、何か基準になるような大きさを設けておくほうが画面のデザインはやりやすい。そこで、今回は14インチモニターのサイズに合わせて画面を設計することにして、画面の左右のピクセル数を580に決めてしまうことにする(ちなみに17インチだと780)。

とりあえず作成画面を適当なサイズにして、ツールボックスの「Insert Horizontal Rule」ボタンを押して線を引く。次に「Window」プルダウンメニューから「ShowInspector」を選択するとパレットが開き、ここにラインの幅が表示されるはずだ。右側のボタンをクリックして「Pixels」にすれば、ラインのピクセル数が分かるので、ここに「580」よりちょっと小さい数字を入れ、作成画面に戻ってウィンドウサイズをこのラインの幅に合わせればいい。

さて本題に戻って、ページの最上部にあるジグザグの飾り線だ。

「PlaceObject」ボタンを押すと、自動的にファインダーからどの画像ファイルを置くのか聞いてくるので、さきほどの「giza-ok.gif」を選択してやると……作成画面にドカンと（音はしないが）ジグザグの飾り線が表示される。

問題はこの飾り線の幅と画面の幅が合わないこと。本当は専用のライン画像だと問題はないのだが……。

そこで、この画像ファイルを「Photoshop」で開き、「画像サイズの変更」で左右のピクセル数を580に指定し、セーブ。これで本番用の「giza-ok.gif」の出来上がりだ。

次に入力しておかなければならないのが「【インターネット探検隊】 隊長 村野幸夫」という部分。ここは英語でカッコよく(?)「Taicho」とでも入れておこう。

次に来るのが縦書き5行の見出しと写真&イラストが左右に分かれているブロック。

どう考えても縦書き文字を入れるのは難しいと思われるので、この部分は画像ファイルを作って挿入することにする。となると、1行2列のテーブルを作成して、その中に部品として、左側の列に縦書き5行の見出しを画像ファイルにしたものを、右側に写真&イラストの画像ファイルを入れることになる(うーん、なんか大したものでもないのに、実際にサーバーにおいてオンラインでアクセスした場合、ダウンロードに

時間がかかりそうな気もするが……)。

次に「カラーザウルス編」という文字の入ったステッカーとイラスト(とその説明)さらに2本の文字コラムの扱いを考える。

これは1行3列のテーブルを作って、その中に個々の部品を入れることにしよう。つまり、一番左の列に、上からステッカー、その下に「illustrator: Kaori Takahashi」という文字、次にイラストが来て、その下にイラストの説明が、そして最後に飾り線が入るという具合だ。さらに、中央と右の列にはテキストが入って、これでこのページのレイアウトはおしまい、ということになる。

テーブルのサイズについては、それぞれの枠についたアンカーポイントをドラッグすることで拡大できるので、画面を見ながら調整する(もちろん、後からエディターでHTMLファイルを開き、数字で調整することもできる)。

🌀 編集部から送ってもらった絵を入れてみる

これで画面レイアウトの大枠はできたので、ここに画像を入れてみることにする。

先ほどのジグザグの飾り線と同様に、配置する場所にカーソルを置いて次に「PlaceObject」ボタンを押し、ウィンドウから目的の画像ファイルを選ぶと作成画面にその画像が表示される……が、なんかでかい! 仕方がないので、画像をポイントし、アンカーポイントをドラッグしながらサイズを調整してみるが、小さくした画像のディテールはぐちゃぐちゃという惨状。これではイラストレーターの高橋嬢の復讐が恐ろしい。

そこで、「Inspector」でこの画像の大きさ(縦横のピクセル数)をチェックしておいて、元の画像をPhotoshopで開き、「画像解像度」メニューでピクセル数を合わせる(図2)。これで実際に利用する画像ファイルの出来上がりだ。

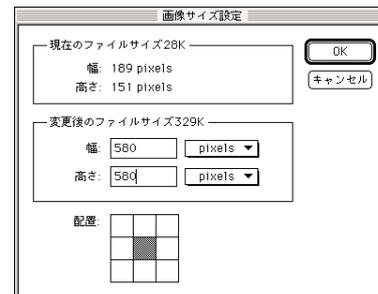


図2: Photoshopでピクセル数を変えているところ。本誌CD-ROMに収録されている以下のソフトでも変換ができる。
Gif Construction Set Ver1.0N (WIN GIFCONST)
Graphic Converter Ver2.5 (Mac Graphic Converter 2.5)



画像を小さくするにはグラフィックツールで画像解像度を変えておこう。

アンカーポイント: ポインターを合わせてドラッグすると、自由に画像の大きさを変えられる点のこと。



図3：PageMillの画面（左）とNetscapeの画面（右）を同時に開いて、ドラッグ&ドロップでリンクの指定をする。



ドラッグ&ドロップで簡単にリンクができた。

ホットスポット：リンクが張られている部分。

つまり、実際のHTMLファイルに取り込む画像ファイルのピクセル数の“あたり”をこの作成画面で付け、次に素材の画像ファイルを「Photoshop」で開いて、サイズを変更するのである。結構面倒だが、これを怠るとせつかくのきれいなイラストや写真などがとんでもないものになってしまうのである。

🌀 ダミーの英文にリンクを張ってみた

フレームの大枠と取り込む画像ファイルの準備ができたところで、今度は本文のテキストだ。この段階ではダミーの英文を入れることになるが、ここでちょっとした工夫を試してみることにした。

実は先月号の本文の1段目のコラムの中に「ザウルス」という単語が出てくる。そこで、ここをクリックすると、ザウルスのホームページにリンクしてしまう仕掛けを作るのだ。そこで真ん中のコラムのテキストを……

Text1-Zaurus-Text2

……という具合に書く。後で日本語エディターでファイルを開き、「Text1-」の部分は本文1段目の「ザウルス」という言葉までの文章で置き換え、「-Text2」の部分はそれ以降の1段目の文章で置き換えるという作戦である。しかし、その前に「Zaurus」という部分にリンクを張っておく必要がある。

そこで、まず「Zaurus」という文字をポイントし、これを「Bold」ボタンで太文字に変える。「この文字がホットスポットですよ～」というお知らせである。

次に「PageMill」をそのままに、新しくNetscapeのウィンドウを開き、ザウルスのホームページへのリンクがあるページを開いてやる。そしてアンカーをドラッグして、ウィンドウをまたいで「PageMill」の作成画面の中にあるこの「Zaurus」という文字に

重ねる（図3）。これだけでリンクは完成だ。

実は、本当はこれくらいエディターでやるのが一番速いような気もするのだが、数が多くなってくると面倒だし、こういう使い方もある……という見本である。

一番右のコラムにも同様に「Text3」という文字を入れて、これで「PageMill」での作業はおしまいだ。

🌀 テキストエディターで開いて日本語文章を中に入れてみる

出来上がった「PageMill」のファイルを「page1test.html」という名前前で保存し、次に適当な日本語テキストエディターでこれを開いて日本語化作業の開始だ。

エディターで開いたファイルにはいろんな文字が並んでいるが、注目すべきポイントは先ほど入れておいた「Taicho」や「Text1-」といった文字列である。ここを日本語のテキストエディターで作った文字列で入れ替えるのだ。ちょっと面倒ではあるが、まあ、機械的な作業である。

この作業が終わったら、いよいよネットスケープでこのファイルを開いてみる。と、素晴らしい出来栄え……になっているはずなのだが、おかし～な～。

まずは表組みをきちんと設定したはずなのに、左右の段落で幅が違う。いろいろ聞いてみたところ、どうやらこれは日本語特有の問題らしい。やっぱりコラムは1本にしておくべきなのかも知れない。

さらに画面のところどころに半角カタカナの「ハ」という文字が入っている。う～ん、これは何だろう？ と思ってもとのHTMLファイルをよくよく見てみると「 」というワケの分からない文字列が入っている。どう考えても納得いかないので、思い切ってエディターで文字列をカットしてみたら、この「ハ」は消えてしまった。ま、理由は分からないが今回はこれでヨシとしよう。

さらに問題がもう1つ。こういうやり方で単純にテキストを流しこんだ場合、段落のない形で文章が流し込まれてしまうので、改行を入れて形を整えてやる必要がある。というわけで、再度エディターの中で原文の改行位置を見ながら「
」という文字列を入れ、文章を整形だ。

本当はこの調子で2ページ目、3ページ目と作って行くことになるのだが、ページも尽きてしまったし、実際、ここで隊長お疲れ状態だ。そこでダミーの「page2.html」を作って同じフォルダーの中に入れ、1ページ目の最後の部分に
 <PALIGN=RIGHT>Next Page
 という次のページに続けるリンクを張っておしまいにすることにした。

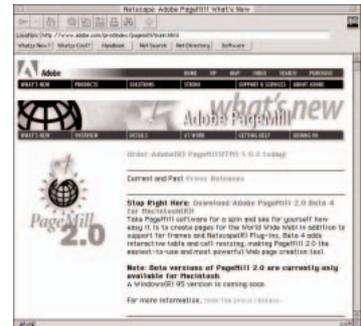
④ 雑誌の誌面構成とウェブのレイアウトは根本的に違う？

まあ、英語版で日本語のウェブページを作るというハンディのせいもあって、実際に

はフレームの幅（枠線の太さや透明化）の調整や細かな部分の手直しが必要だったが、なんとかそれらしいページを作ることができた。ただ、やっていくうちに当初の目標（つまり、雑誌の記事そのものの形にページを作るなんてこと）自体がへんだったのではないかと思えてきたのは事実である。

たとえば、この連載記事では本文中のキーワードをページの端のコラムで解説していたり、本文と関係した図版を文末に置くなどしているが、そういうリンクや参照関係というのはウェブページの場合、別のウィンドウを開いたり、別のページにリンクさせたりできるし、これを使わない手はない。

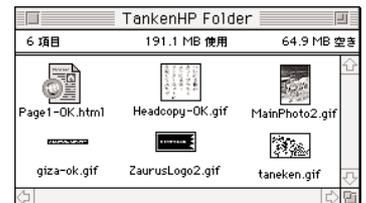
というわけで、ウェブページのデザインというのは文章の構成そのものを変えてしまうんじゃないかな～という感想で今回の探検を終わりたい……というより正直に言えば「ふう～、いくらタダとは言え、やっぱり疲れるな、英語版。早く日本語の通るPageMill2.0Jが欲しいなあ……」というのが本心なのであった。



PageMill2.0 版がダウンロードできるサイト。
 URL: <http://www.adobe.com/prodindex/pagemill/main.html>



Adobe PageMill1.0J
 価格：29,800円
 開発元：アドビシステムズ
 問い合わせ：メディアビジョン TEL 03-3222-6841



今回使用した画像データとページミルの書類。

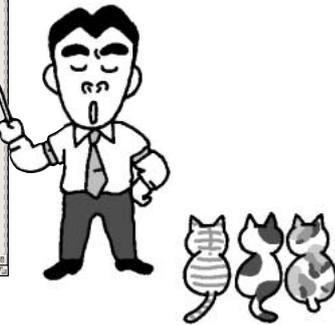
③ MainPhoto2.gif
 隊長のイラストとバックの写真をPhotoshopで合成。

⑦ 2本の文字ブロック
 本文を2列にするには、テーブル機能を使う。

- ① Giza-ok.gif
一度はめ込んだ画像をウィンドウの横幅に合うようにPhotoshopで横幅のピクセル数を調節した。
- ② キャプションテキスト
最初は英語で入力し、日本語のエディタで修正。
- ④ Headcopy-OK.gif
ウェブでは指定できないので、Photoshopで文字をつくり、画像としてはめ込んだ。
- ⑤ ZaurusLogo2.gif
画像として埋め込んである。
- ⑥ tanken.gif
イラストとキャプション。ここのイラストのピクセル数をPhotoshopなどのグラフィックツールで調節しなければならないし。



▲ 図4：今回作成したホームページ。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社**インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp